

2025

草むらの学校

自然資本活用レポート

丹波篠山市倉本の里山フィールドで、人と自然の関係性をつくりながら記録してきた1年間の活動報告。

25 回 開催回数	231 名 延べ参加者	95 % 市外参加者	22 種 確認樹木種
---------------------	-----------------------	----------------------	----------------------

発行 株式会社ミドリカフェ

対象期間 2025年1月～12月

所在地 兵庫県丹波篠山市倉本141 西紀中地区 活動面積 0.5ha

連絡先 info@midoricafe.jp / midoricafe.jp

CONTENTS

目次

01 この場所と、活動について

About the place and our work

02 活動の記録

Records of 25 sessions

03 自然資本のデータ

Natural capital, in numbers

04 SDGs・TNFD との対応

Aligned with global frameworks

05 来年度に向けて

Plans for 2026

06 次の人へ — 引き継ぎ書

A letter to the next steward

— ミドリカフェからのご提案

What we can offer

NOTE 本レポートはSDGsやTNFDへの「準拠」を宣言するものではありません。それらのフレームワークを参考に、活動が自然・社会とどうつながっているかを整理したものです。数値はいずれも参考推計値であり、実測値ではありません。

CHAPTER 01

この場所と、活動について

About the place and our work

草むらの学校が育まれてきた里山フィールドと、1年間の歩み

丹波篠山市倉本の里山で、2025年1月から一年間活動を行いました。

「草むらの学校」は名前のお通り、自然そのものが先生です。

◆ フィールドの概要

項目	内容
所在地	兵庫県丹波篠山市倉本 141（西紀中地区）
活動面積	0.5ha（里山林・草地・活動エリア）
植生	広葉樹・針葉樹混交林（確認樹木 22 種）
ハザードマップ	土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）に指定
活動開始	2025 年 1 月

HAZARD MAP

本フィールドは土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）に指定されています。継続的な里山整備は、防災機能の維持に直接寄与する重要な活動です（詳細は Chapter 03 を参照）。

◆ 活動の概要（2025年1～12月）

25 回 開催回数	231 名 延べ参加者	4 部門 活動カテゴリ	0.5 ha 活動面積
---------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------

— ツリーハウス部（20回）

— きのこ部（2回）

- 生きもの部 (2回)
- 山賊ワイルドラン (1回)

◆ 誰が来ているか

231名のうち、95%が丹波篠山市の外からやってきました。神戸・大阪・東京——都市に暮らす人々が、週末にこの場所を訪ねてきます。20代が中心(65%)で、子ども連れの家族(20%)も増えてきました。地域住民の参加はまだ5%と少ないですが、都市と農村をつなぐ“入口”として。まずは市外参加者との接点形成が進んでいます。

属性	割合	推計人数	特徴
20代	65%	約150名	都市在住・自然体験への関心層
子ども	20%	約46名	家族連れ・親子参加が増加傾向
30~50代	10%	約23名	子育て世代・地域関心層
地域住民(市内)	5%	約12名	西紀中地区・近隣在住者

NOTE 市外参加者(約219名)の多くは、交通・飲食・土産品等を通じて丹波篠山の地域経済に貢献しています。地域内消費の推計は参考値約67万円(市外219名×3,000円 + 市内12名×1,000円)。

CHAPTER 02

活動の記録

Records of 25 sessions

4つの部門と、25回の積み重ね

木を切り倒す音。丸太を玉切りにして、路を切り拓く。あふれる笑顔と達成感。この1年間に積み重なった、25回の記録です。

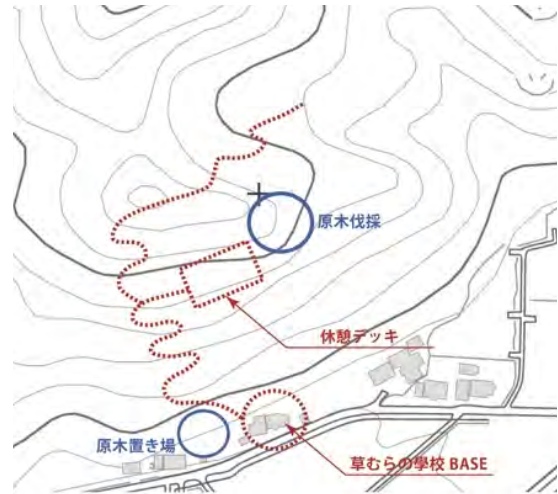
ツリーハウス部 (20回)

- 里山の木を使ったツリーハウスの設計・建設
- 道具の使い方・木材加工の基礎
- 仲間と力を合わせてつくる体験
- 活動中の樹木伐採: **14本**



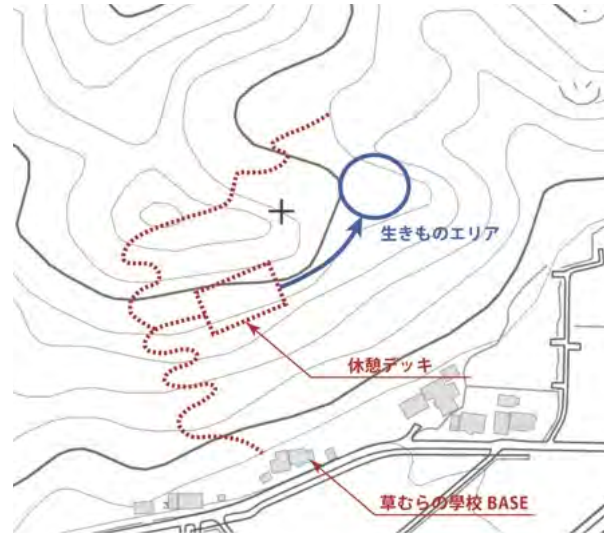
きのこ部 (2回)

- 広葉樹の原木へのきのこ菌の植菌
- 菌の生態・森の循環を学ぶ
- 数ヶ月後の収穫まで続く関わり
- 活動中の樹木伐採: **8本**



生きものの部 (2回)

- 里山の昆虫・植物の観察と記録
- ネイチャーガイドとともに歩く
- 生物多様性の現状を体感する
- 活動中の樹木伐採: **20本**



山賊ワイルドラン (1回)

- 常緑広葉樹 30 本の伐採・搬出
- 光環境の改善・林床植生の回復促進
- 体を使って森の整備に直接関わる
- 活動中の樹木伐採: **30 本**



4 部門合計伐採本数

72本

ツリーハウス 14 + きのこと 8 + 生きもの 20 + 山賊 30

CHAPTER 03

自然資本のデータ

Natural capital, in numbers

この里山が持つ力を、できる限り数字で記録する

NOTE 本章の数値（CO₂固定量・生態系サービス価値など）は、林野庁・環境省・国土交通省の公式資料をもとにした参考推計値です。実測値ではありません。今後のモニタリングにより精度を高めていく予定です。「盛っていない数字」を大切にしています。

◆ 生物多様性 — 確認された命

確認樹木種（フィールド全体 0.5ha）

スギ・ヒノキ・モウソウチク・ヤマザクラ・コナラ・アベマキ・ソヨゴ・アセビ・カシ・シイ・ヒイラギ・サカキ・ヒサカキ・ネジキ・リョウブ・コバノミツバツツジ・ヤマツツジ・コシアブラ・タカノツメ・アカマツ・チャノキ・ヤブツバキ など

◆ CO₂固定量(参考推計値)

22 種 確認樹木種 (0.5ha)	9.0 t-CO ₂ 年間固定量 (推計)	72 本 4部門合計伐採本数	0.5 ha 対象フィールド
------------------------------	--	--------------------------	--------------------------

林野庁資料を参考に算出（0.5ha × 18t-CO₂/ha/年・推計）。4部門の活動を通じて合計72本を伐採し、林床への光環境が改善しています。

◆ 生態系サービスの経済的価値(参考推計値)

機能	算出根拠	年間価値 (0.5ha)
水源涵養	林野庁「森林の公益的機能評価」準拠	約 285,000 円
土砂流出・崩壊防止	同上（根系による斜面安定）	約 140,000 円

機能	算出根拠	年間価値 (0.5ha)
洪水緩和・雨水貯留	国土交通省「治水機能評価」参考値	約 175,000 円
生物多様性保全	環境省 TEEB 参考値 (樹木 22 種確認)	約 110,000 円
レクリエーション・教育	参加者 231 名の活動実績から換算	約 75,000 円
CO ₂ 固定	炭素クレジット市場参考価格(9.0t-CO ₂)	約 20,000 円
年間合計 (参考推計値)	—	約 805,000 円/年

80.5 万円 <small>0.5ha が提供する無償の価値</small>	31.5 万円 <small>防災機能の経済換算 (土砂+洪水)</small>	67 万円 <small>地域経済への参考推計</small>	9.0 t-CO ₂ <small>年間 CO₂固定量 (参考推計)</small>
---	--	---	--

RED ZONE - 防災機能の重要性

本フィールドは土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）に指定されており、継続的な里山整備は防災機能の維持に直接寄与しています。土砂流出防止・洪水緩和の推計値（合計 31.5 万円/年）は、この防災的文脈においてより実態に即した数値といえます。

※上記の数値はいずれも参考推計値であり、実測値ではありません。今後のモニタリング（雨量計・土壌水分計の設置等）により精度を高めていく予定です。

CHAPTER 04

SDGs・TNFD との対応

Aligned with global frameworks

国際的なフレームワークとの接点を整理する

NOTE 本レポートはSDGsやTNFDへの「準拠」を宣言するものではありません。それらのフレームワークを参考に、この活動が自然・社会とどうつながっているかを整理したものです。

◆ 関連する SDGs ゴール

GOAL 15	GOAL 11	GOAL 4	GOAL 3	GOAL 17
-------------------	-------------------	------------------	------------------	-------------------

SDGs ゴール	活動との対応
Goal 15 陸の豊かさを守ろう	0.5haの里山フィールドでの生物多様性の維持・観察・記録。樹木22種の確認と継続モニタリング。山賊ワイルドランによる光環境の改善。
Goal 11 住み続けられるまちづくりを	市外参加者95%（約219名）の来訪による関係人口の創出。都市と農村をつなぐ体験拠点の形成。
Goal 4 質の高い教育をみんなに	自然体験・ものづくり・生きもの観察を通じた非認知教育。子ども（20%）を含む次世代への里山の知恵の伝達。
Goal 3 すべての人に健康と福祉を	自然の中での活動がもたらすウェルビーイング効果。都市部参加者の精神的・身体的健康への貢献。
Goal 17 パートナリシップで目標を達成しよう	地域住民・都市部参加者・企業・行政をつなぐ多主体連携の実践。

◆ TNFD の LEAP アプローチ(参考整理)

フェーズ	考え方	草むらの学校での実践	今後の課題・展望
L Locate 場所の特定	事業・活動が自然資本に依存・影響する場所を地図上で特定する。生態系の感度が高いエリア（保護区・希少種生息域・ハザードエリア）を把握する。	<p>【所在地】丹波篠山市倉本 141・西紀中地区 (0.5ha)</p> <p>【生態系タイプ】広葉樹・針葉樹混交林 (里山二次林)</p> <p>【注目すべき点】土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン) に指定。継続的な整備が防災機能の維持に直結するエリア。</p>	GIS や衛星データを活用した植生マッピングの実施。周辺の農地・水源との関連性の整理。
E Evaluate 依存・影響の評価	活動が自然資本に「依存」している内容 (恩恵を受けているもの) と「影響」を与えている内容 (正負両面) を評価する。	<p>【依存】木材・広葉樹資源 (ツリーハウス建設・きのこ原木)、生物多様性 (体験コンテンツの源泉)、景観・文化的資源 (参加動機の源泉)</p> <p>【ポジティブな影響】樹木 22 種の生息環境維持、72 本の伐採による光環境改善、里山荒廃の抑制</p> <p>【ネガティブな影響】活動による踏圧・一部植生への影響 (モニタリングで継続確認中)</p>	草本・下草の変化データの蓄積。伐採後の植生回復状況の定点観察。土壌への影響評価。
A Assess リスクと機会	自然資本の変化が、事業・活動にもたらすリスク (物理的・規制・評判) と機会 (新市場・関係構築・資源活用) を評価する。	<p>【リスク】担い手不足による里山荒廃の進行、鹿害・獣害による植生破壊、気候変動による豪雨・土砂崩れリスク (レッドゾーンの特性)</p> <p>【機会】市外参加者 95%・219 名という関係人口の形成、体験コンテンツとしての差別化価値、自然資本データの蓄積による補助金・クレジット活用の可能性</p>	モニタリングデータの蓄積によりリスクの定量化精度を高める。J-クレジット申請の検討。企業連携プログラムとの接続。
P Prepare 開示の準備	上記 L・E・A の結果をもとに、情報開示の方針・目標・指標を設定し、ステークホルダーへの報告体制を整える。	<p>【本レポートによる開示】活動実績・生物多様性データ・CO₂固定量・生態系サービス価値・地域経済効果を整理・公開</p> <p>【開示の姿勢】推計値であることを明記し「盛らない数字」を徹底。TNFD への準拠宣言ではなく「入口」として位置づけ。</p> <p>【更新の方針】年 1 回の定点モニタリングにより実測値への更新を継続</p>	デジタルアーカイブ化によるリアルタイム開示の実現。第三者によるデータ検証の検討 (将来的に)。企業向けレポートへの応用展開。

CHAPTER 05

来年度に向けて

Plans for 2026

小さく、継続して、積み上げていく

「大きくやろう」ではなく、「小さく継続して、積み上げていく」。それが草むらの学校の2年目の方針です。

◆ 2026年度の目標

<p>30+ 回</p> <p>月2~3回ペース（前年25回）</p>	<p>250+ 名</p> <p>市外参加者の継続参加率を重視</p>	<p>年2 回</p> <p>定点調査を実施</p>	<p>実測 化</p> <p>参考推計値→実測値への更新</p>
--	--	-----------------------------------	---

◆ 重点取り組み

モニタリングの強化

フィールド全体での植物種の定点観察を年2回実施。昆虫・鳥類データの蓄積を開始。今後、雨量計・土壌水分計の設置により、CO₂固定量・防災機能の参考推計値から実測値への更新を目指します。

連携の拡大

企業向け体験プログラム（ユニットピア・キクヤ）との連携強化。淡路景観園芸学校・澤田准教授との学術連携。市内事業者・地域住民との接点づくり（地域住民比率5% → 15% へ）。

将来構想 — デジタルアーカイブ化

参加者がWebフォームに活動データを入力すると、自動でレポートが生成・PDF化される仕組みの開発を検討しています。蓄積されたデータはデジタルアーカイブとして公開され、次の参加者が「前の参加者が何をしたか」を参照できる引き継ぎの基盤になります。

記録が循環する。それが、この場所の自治の仕組みになっていきます。

◆ 山林の整備前後比較





CHAPTER 06

次の人へ — 引き継ぎ書

A letter to the next steward

この最終章が、次の参加者の最初のページになります。

次にここに来る人へ

丹波篠山市倉本のこのフィールドは、2025年の1年間で25回、231人が訪れた場所です。

大半は、ここから遠い場所に暮らしています。神戸、大阪、東京——。それでも、週末になるとここへ来て、木を切り倒し、路を切り拓き、アクティビティの場を増やしました。

活動の象徴とも言うべきツリーハウスは、まだ完成していません。あなたが次にここに来るとき、このツリーハウスはあなたを待っています。

樹木22種が、この0.5haに生きています。スギ、コナラ、ヤマザクラ、ヤブツバキ——名前を覚えることが、この場所を自分のものにする最初の一步だと思っています。

この1年間で、約9.0t-CO₂がこの森に固定されました(参考推計値)。数字よりも、実際に光が差し込んだ林床の様子を見てほしいです。

次の担い手へ——この場所を、どうかよろしくお願いします。

草むらの学校 参加者一同 / 2025年12月

◆ フィールドの現状記録(引き継ぎデータ)

項目	2025年12月時点	次回確認推奨
ツリーハウスの状態	建設継続中(順次拡張)	2026年春~夏
確認樹木種	22種(フィールド全体0.5ha)	2026年秋
光環境(4部門72本伐採後)	林床への光が改善。植生回復を確認中	2026年夏~秋

項目	2025年12月時点	次回確認推奨
きのこ原木の状態	植菌済み・発生待ち	2026年秋～冬
生きものデータ	記録開始中（今後継続蓄積）	次回生きもの部で計測

NOTE このレポートを受け取った方へ——本書は草むらの学校の1年間の記録です。企業・団体の皆様が地域の自然資源に関わる際の参考として、また自社の活動を記録・開示するレポートのサンプルとしてご活用ください。詳しくはミドリカフェまでご連絡ください。